



**決め手はレセコン一体型電子カルテに！  
最高レベルの診療技術に  
抜群の効果を発揮しています。**



胃腸科・肛門科・外科

●医療法人 ただともひろ胃腸科肛門科様(埼玉県さいたま市)

2006年7月にオープンした武蔵浦和メディカルセンター内に同時オープンしたのが「ただともひろ胃腸科肛門科」。無送気軸保持大腸内視鏡検査・経鼻内視鏡検査・痔疾患日帰り手術に特化して、無痛・安全・高精度の診断・治療を行い、近隣や埼玉県内だけでなく、全国から患者さんが同クリニックを訪れます。最高レベルの診療技術に大いに効果を発揮しているのが電子カルテ。「導入に当たってのポイントは、電子カルテがレセコン一体型であったこと。診療費を計算する際に迅速でエラーが生じないから安心です。内視鏡の画面が電子カルテと連動して、同一画面で表示できるようにしたのも特長のひとつ。お陰で診察室のスペースにもゆとりが生まれ、高精度でスムーズな診療ができます。BMLとオリンパスが技術協力した成果だと思いますね」(多田 智裕理事長) 現在、受付に2台、診察室に2台、診療室裏に1台、内視鏡室に1台、サーバー1台の構成により電子カルテシステムを活用。今後、手術機器の台数を増やすご意向なので、それにつれて、《メディカルステーション クリニック》の台数を増やすことも検討されています。

患者さんへ、お医者さんへ  
うれしい電子カルテ。

**Medical Station**  
メディカルステーション クリニック  
CLINIC

株式会社ビー・エム・エル 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3 TEL.03-3350-0111 FAX.03-3350-1180 <http://www.bml.co.jp/>

## 内視鏡画面と連動して、 胃腸科・肛門科の専門診療に貢献する BMLの電子カルテシステム

胃腸科・肛門科・外科 医療法人 ただともひろ胃腸科肛門科 (さいたま市南区)

近年、自身の持つ専門性を活かそうとして開業する医師が増えています。今回ご紹介する「ただともひろ胃腸科肛門科」の多田智裕理事長も、「自分の信念に基づいた専門性を活かす診療をしたい」という思いを実現させるために、専門クリニックが集っている国内最大規模の医療モール「武蔵浦和メディカルセンター」に開業しています。

同クリニックでは、理念に「世界最高レベルの胃腸科・肛門科診療を提供する」ことを掲げ、“経鼻胃内視鏡検査”と“無痛大腸内視鏡検査”“日帰り痔疾手術”を診療の3本柱としています。その手助けしているのがBMLの電子カルテシステム「メディカルステーション クリニック」。

今号では、ここ武蔵浦和地区で内視鏡による胃腸科・肛門科の専門医療の向上を目指している多田智裕理事長から、これからの電子カルテシステム活用法などを伺ってきました。

多田智裕理事長・院長



クリニック入口

MUSE CITY

### ■専門性を生かしたい

武蔵浦和メディカルセンターは、JR武蔵浦和駅から徒歩4分ほどの所にある地上31階建ての高層マンションと大型商業施設、スポーツジムとの複合施設“MUSE CITY”に開設された国内最大規模の医療モール。ここには専門に特化した診療所が集まり、「ただともひろ胃腸科肛門科」の他に7施設のクリニックと調剤薬局があります。オープンは2006年7月で、「あなたにぴったりの専門医師がきっとみつかる！」をコンセプトにしています。

開業について多田理事長は、「開業するならば、自分の専門を生かした内視鏡による胃腸科と肛門科の専門診療を行いたい」と考えていました。開業は、医療モールのオープンと同時。現在、スタッフは多田院長以下、常勤と非常勤合わせて20人です。当初、医師は理事長1人だけでしたが、今は大学病院などから非常勤で6人の医師に来てもらい、常時2人が診察室と内視鏡をカバーする体制をとっています。

### ■広がる医療圏

開業以来2年半が過ぎた同クリニック。現在、1日の外来患者数は平均60人ほど。年間手術数は、上部内視鏡が1,800例、下部内視鏡が2,200例にものぼり、他痔疾手術も400例ほど実施しています。「開業以来、手術は無事故」と

いうのが理事長の自慢です。

ここ武蔵浦和地区は住宅地なので、当然、一般外来も必要です。しかし、通常の開業医のようにいろいろな疾患を診るのとは違って、来られるのは胃腸科と肛門科の患者さんだけです。この点、「専門分野に集中できて良かった」と理事長。今では同クリニックの患者さんは、さいたま市近隣や埼玉県内にとどまらず、全国からやってきているということです。

「専門性に特化するとエリアが広がります。従来は、都内に行くしかなかった手術が、ここで出来るようになりましたからね」

### ■クリニックの3本柱

“世界最高レベルの胃腸科・肛門科診療の提供”“信頼できる病院との提携・連携による安心の医療体制により、最善の医療を提案”“信頼して来院できる雰囲気づくり、寛げる環境づくり”“適切な情報を分かりやすく迅速に説明”が、同クリニックの理念です。

「胃腸科・肛門科の専門クリニックとして、せっかく武蔵浦和メディカルセンターという専門性が活かせる医療モールでの開業なので、世界最高水準の胃腸科・肛門科診療を提供しようと日々研鑽しているところ」と理事長は、すこぶる意欲的です。



クリニック受付



内視鏡検査センター



診察室・内視鏡画面と電子カルテが連動している

世界最高レベルの診療の提供ということでは、まず胃カメラは鼻から挿入する「経鼻胃内視鏡」を使って、他の内視鏡診療所との差別化を図っています。この技法では、従来の胃カメラと違って嘔吐感がほとんどないため、検査や手術が非常に楽です。経鼻胃内視鏡検査や手術は、埼玉県ではトップレベル。大腸内視鏡検査では、無送気軸保持短縮法という特別な技術による「無痛大腸内視鏡検査」を実施。この痛くない検査方法が評価を受けて、年間2,200例も行われています。普通、大学病院でも年間1,000例から1,200例くらいと言いますから、同クリニックでは年間、その倍以上の内視鏡検査を行っているわけです。また、肛門科の痔疾治療では、「日帰り手術」を実施。これには通常の手術を加えて、ジオンという痔の硬化療法(ALTA)を行っています。これは切らずに注射で治す方法なので、患者さんの痛みや負担が少ない。日帰り手術数も埼玉県では最多ということですが。

この「経鼻胃内視鏡検査」と「無痛大腸内視鏡検査」、「痔疾の日帰り手術」が、前述のように診療の3本柱。コンセプトは「痛がらせず、しかも安全に高精度の診療をすること」ですから、経鼻胃内視鏡検査は5分から10分、大腸内視鏡検査でも15分程度ということですが。

「専門性に特化した医療モールでの開業なので、大学病院よりも良い医療器械や機材を揃えて、この“経鼻胃内視鏡検査”と“無痛大腸内視鏡検査”“痔疾の日帰り手術”に関しては、大学病院よりも上の診療を行う」と、自信のほどを見せる理事長です。

### ■決めては、レセコン一体型のシステム

「世界最高レベルの内視鏡診療を提供したい」という理念をサポートしているのがBMLの電子カルテシステム「メディカルステーションクリニック」。現在、電子カルテは受付2台、診察室2台、診察室裏1台、内視鏡室に1台配置されています。

BMLの電子カルテシステムに決めたポイントは、第一にはレセコン一体型であったこと。レセコン分離型では、医療費を計算をする時に再度入力する手間が要り、電子カルテから転送する時にエラーが生じやすいといわれています。レセコン一体型ならそのような手間暇が不要で、エラーもない。さらに、使いやすくカスタマイズ化が非常に容易であることも利点として挙げています。

### ■内視鏡画面が電子カルテと連動

電子カルテシステム導入のメリットには、カルテの保管スペースが不要となることや診療が効率的にできること、患者さんの待ち時間を短縮できるなどいろいろあります。BMLの電子カルテシステムを導入した最大のメリットを、理事長は次のように話してくれました。

「何より、他社と比べてサポート力が優れています。一つには、内視鏡で診察した画面が電子カルテと連動して、同一画面で表示できるようにしたこと。お陰で診察室のスペースにもゆとりが生まれ、高精度でスムーズな診療ができます。BMLとオリンパスが技術協力した成果だと思います」

普通、内視鏡検査を行うクリニックでは、内視鏡画面を説明するために診察室にモニターを置いています。しかし、画面が1つか2つになるかは医師にとって大きな違いで、画面が1つになるとより診察がスムーズにできるということです。

「こういうこともできるのは、サポート力があるからこそでしょう。サポート力というと、トラブルが発生した時の迅速な対応が問われますが、それももちろん大事なことです。それに加えてこの辺のサポート力が、BMLは他社と全く違いますね」と、サポート力の高さを評価してくださいました。

結びとして多田智裕理事長に、これからの「メディカルステーションクリニック」の活用法を伺ってみました。「今後は、手術機器の台数を増やすこととメディカルステーションクリニックの増設も考えています。そして、胃腸科・肛門科専門クリニックとしての内視鏡治療の向上に役立てていきたい」



内視鏡洗浄装置



内視鏡検査のための専用トイレ